

目的 平面構成である和服の着装状態において必然的に出てくる余剰分は、人工的に折りたたみじわとして処理され、更に離体部の間隙として現われてくる。この間隙は、体型その他の諸要因によって、量と位置に変化があると考えられるが、中でも着衣基体の形態により決定される場合が多い。今回は上半身の胸部・背部定位において保有される間隙量の普遍的數量を求めることを目的とし、衽寸法設定の基礎資料としたい。

方法 胸部矢状径に差異のある被験者2名を選び着装実験を行った。計測は、瞬時に三次元的把握のできるモアレトポグラフィ法を用い、人体と着装状態各々前後二方向から撮影した。この写真から定位における縦・横断面図を作成し、着衣基体と着装状態との差を比較検討した。

結果

1. 離体部と接触部についての特徴を見い出すことができた。
2. 体型の違いによる形状変化を把握することができた。
3. 衽寸法において胸部より背部からの影響大であると認められた。